

## 1. はじめに

2015年には、団塊世代が高齢期に達し、更に2025年には、3.5人に1人が高齢者の状況になる。このように社会環境が大きく変化していく中、今後の社会福祉サービスは、量的拡大に加え、増大する対象者の多様なニーズへ柔軟に対応していく質的拡大も求められてくる。

更に、昨今は民間企業の参入により、利用者も権利意識を持ってサービスを選択するようになってきている。また、公的財政の悪化に伴う福祉関連予算の圧縮など、今後社会福祉法人を取り巻く経営環境は厳しくなってくることが予測され、効率的・効果的な経営手法の確立が望まれる。

東京都では、平成21年から「社会福祉法人経営適正化検討会」を設置し、社会福祉法人の経営適正化に向けた検討が行われ、平成23年にその結果が取りまとめられた。この検討会においても、経営手法の標準化が課題点として指摘されており、施設運営の最適化を行う上で、経営手法としてのマネジメント能力の育成・向上が重要だと考えられる。

財団法人介護労働安定センターが平成20年に実施した「介護老人保健施設における介護職員キャリアアップシステムの確立」に関する調査研究において、「介護職員キャリアアップモデル」が示された。その中で、経営者・管理者のスキルとして経営やマネジメントに関する能力の習得が求められているが、体系的に学習できるプログラムが不足している状況が見受けられる。

そこで、本事業では各事業所が効果的な経営方策の手法として、標準的なマネジメントスキルを高めていけるように、「経営戦略」、「財務・会計」、「人事管理」、「組織管理」、「リスク管理」の5つの視点から、現状の社会福祉法人のマネジメント上の課題を評価するとともに、経営基盤の安定化に向けて必要な標準化されたマネジメントスキルの修得を目的とした育成プログラムの検討を行う。

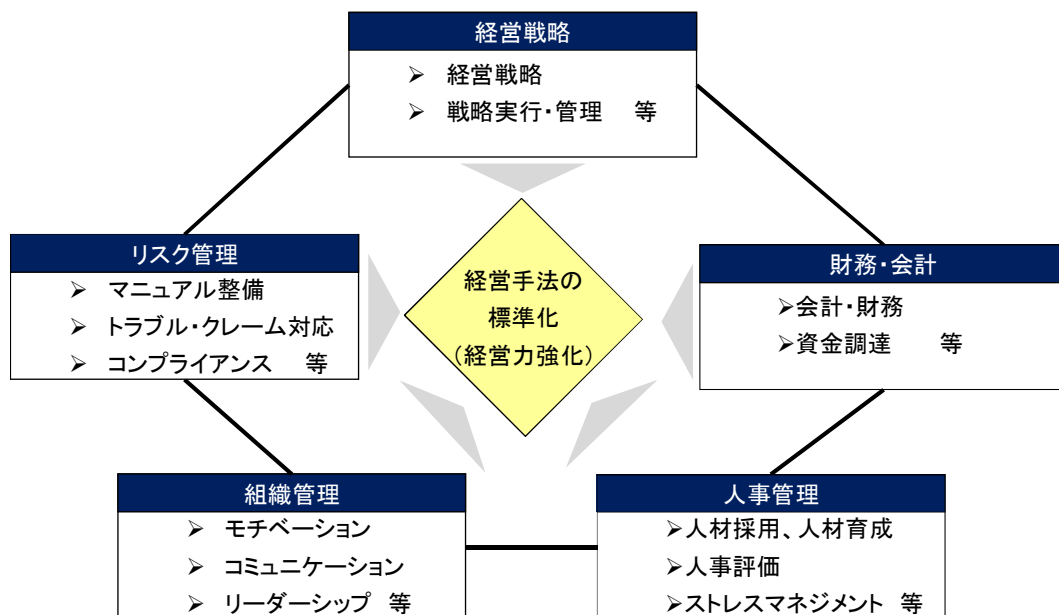


図 1 経営手法の標準化に向けたマネジメントスキル